Global Link

ご使用の前には必ず取扱説明書をよくお読みください。

GE-SCOOTER

Model:TDR216Z

取扱説明書

GE−SCOOTERをお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

安全にかかわる注意情報を示してあります。

⚠ 警告 **取扱を誤った場合、死亡･重症･障害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**

注意 **取扱を誤った場合、物的障害の発生が想定される場合をしめしてあります。**

要点 **正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。**

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」・「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。
※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

安全運転のために

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには､次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身のために

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。車に乗るときには、安全項目・注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

安全運転は正しい服装から

➢ヘルメットは必ず着用してください｡ヘルメットは　PSCまたはSG・JISマークのある二輪車用を必ず着用してください｡ヘルメットは正しくかぶり、必ず　あごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。

➢グローブを必ず着用してください。グローブは､摩擦に強い皮製のものが適しています。
➢ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときはゴーグルを使用してください。
➢運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。
➢疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
　-保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
　-動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

➢以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
　-ズボンのすそや袖口の広い服
　-衣服の飾り物や紐など､長すぎる装飾がある服
　-ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

➢靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。
また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

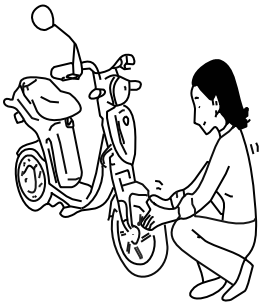
⚠ 警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検･定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を運転する前に行ってください。
また、法令に準じた１年、２年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

車の異常



異音がしたり、異臭や異常な振動があるときは、車が故障しているおそれがあります。
そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり
危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

スロットルグリップに磁気を帯びたものや磁気の影響を受けるものを近づけない

強い磁気を帯びたものや､磁気の影響を受けやすいカード類、時計などをスロットルグリップに近づけないでください。

冠水した道路を走行しない

冠水した道路を走行すると、モーターが停止するだけでなく、漏電やショートなどの故障の原因となります。やむをえず冠水した道路を走行し、水に浸ってしまったときは、販売店で点検・整備を受けてください。

荷物を積む時は

- 荷物を積むと､積まないときにくらべて操縦安定性が変わります｡荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険です。積みすぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください｡ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色､溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- モーターなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。

押して移動するときはメインスイッチをOFFにする

車から降りて押して移動するときは、メインスイッチをOFFにしてください。なお、後進させるときに「ゴツゴツ」した感じがありますが､モーターの特性であり故障ではありません。

乗車定員は1名

運転者以外に人を乗せることは、道路交通法によって禁じられています。

法定最高速度は30km/h

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。
事故や故障の原因となることがあります。

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう､販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると､故障などの原因となります。

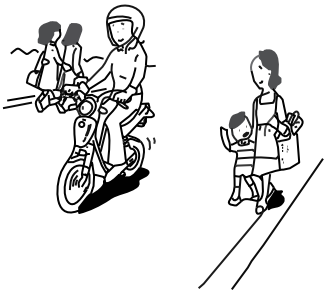
自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。
また、保険の期限切れにも注意してください。

歩行者と他の車のために他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し､相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。

- 周囲の状況に注意して､安全なスピードで走行してください。また、歩行者や自転車のそばを通るときは､安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

➢盗難予防のため､車から離れるときは必ずロックをかけ､キーをお持ちください。
また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

➢交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
平坦な場所に駐車してください｡やむをえず､傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは､転倒や動き出しのないようにしてください。

➢車から離れる前に、メインスタンドが確実にセットされているかを確認してください。

違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。

環境への配慮

廃車をするときや、寿命がきてバッテリーの交換が必要になったときは、環境保護のためお買い上げの販売店にご相談ください。

交換部品

アクセサリーや交換部品は純正部品を使用してください。

⚠ 警告

タイヤなどの消耗品やアクセサリーなどの部品は､販売店にご相談のうえ､必ず純正部品を取り付けてください｡それ以外の市販品を使用しますと､事故によるケガや故障の原因になることがあります｡また､保証の適用が受けられない場合があります｡

安全に充電していただくために

➢雨や水などが当たらない場所で充電してください｡感電やショートにつながるおそれがあります。

➢転倒や事故などにより車両が変形している場合は､充電プラグをコンセントに差し込まないでください｡感電やショートにつながるおそれがあります。

➢充電コードや充電プラグに変形や傷付きがある時は､充電プラグをコンセントに差し込まないでください｡感電やショートにつながるおそれがあります。

バッテリーの充電

□ 充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いとバッテリーや車載充電器の故障の原因となります。下記の諸条件を満たす場所を選んで充電してください。

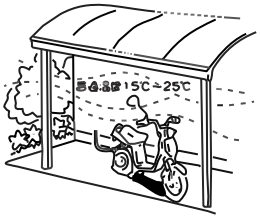
- 平坦で車両の安定がよいところ。
- 車両と充電コード､充電プラグが雨や水に濡れないところ。
- 直射日光が当たらない、涼しいところ。
- 風通しがよく、湿気のないところ。
- 幼児やペットなどが車両や充電コード､充電プラグにいたずらをしないところ。
- 充電中の環境温度が-5℃～50℃の範囲内の場所。（15℃～25℃を推奨）
- 充電コードをはさんだり、踏んだり、引っ張ったりするおそれのないところ。

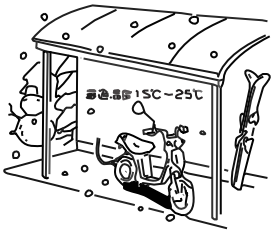
□充電おすすめ場所の参考例

要点

- 充電に最適な環境温度は約15℃～25℃です｡バッテリー温度が-5℃～50℃の範囲なら充電可能ですが､走行直後のバッテリーは、この温度範囲外にある場合があります。このとき、バッテリーや車載充電器の温度が適正温度になるまで充電待ちの状態になります。
- -5℃以下では充電待ちの状態になります。
- バッテリーが劣化してくると、氷点下での充電ができなくなります｡劣化したバッテリーでは0℃～50℃が充電可能な温度範囲になります。

日陰で涼しく、
風通しのよい場所

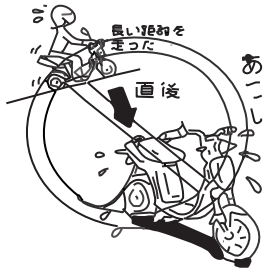




夜間でも-5℃以下に
ならない場所

□充電に適さない場所･充電方法

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くでの充電
- 長い距離を走行した直後の充電
  充電途中でバッテリーが規定の温度を越えたときは、バッテリー保護のために自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。また、バッテリーの劣化にも影響しますので、充電はできるだけ涼しい場所で行ってください。
- 冬の屋外､または物置などの寒い場所での充電
- 充電前には適正温度範囲内であっても深夜の冷え込みなどにより途中で-5℃以下になるとバッテリー保護のために自動的に充電待ちとなります。このようなときは、あたたかな場所でもう一度充電をしなおしてください。充電待ちが長時間続くと自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。



バッテリーの充電

□充電のしかた(1)

⚠ 警告

- **植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器、その他の医療用電気機器を使用している方は、医師や医療用電気機器製造業者などに充電による影響の有無を確認してから充電を行ってください。充電が医療用電気機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。**

- **充電前に、ほこり、ゴミ、土、油、水などが充電プラグに付着していないことを確認し、付着していた場合は乾いた布でふきとってください。**

- **いつもと違う臭いがしたり、車体から煙が出ている時は、すぐに充電を中止してください。**

- **周囲が囲まれた換気の悪い場所で充電しないでください。**

- **幼児や、ペットなどの動物がいたずらするところでは充電しないでください。予想外の行動により、危害を受けたり火災になるおそれがあります**

- **シートを開けたまま雨の中に放置しないでください。バッテリーや車載充電器を故障させるおそれがあります。また、感電やショートにつながることがあります。故障した場合は、販売店で点検･整備を受けてください。**

- **ガソリンなどの引火物の周辺で充電しないでください。火災の原因となります。**

- **充電は平坦な足場のしっかりした場所を選びメインスタンドを立てて行ってください。**

- **充電プラグ、充電コード、漏電遮断器に接続されたアース付きコンセントに損傷、腐食サビなどがあるとき、または接続部にゆるみがあるときは充電を行わないでください。火災、感電、ショートの原因となります。**

- **感電など充電中の事故を防ぐため、以下の内容を守ってください。**

  ･漏電遮断器に接続されたアース付きコンセントを使用して充電してください。
  ･雨や水に濡れるところでは充電しないでください。
  ･充電プラグに、ほこり･ゴミ･土･油･水などが付着しないようにしてください。
  ･充電コードや充電プラグに変形や傷付きがあるときは、充電をしないでください。
  ･充電コードや充電プラグが濡れているときは、乾いた布でふきとってください。
  ･充電コードや充電プラグを改造しないでください。
  ･ボディーカバーをかけた状態で充電しないでください。
  ･濡れた手で充電プラグの抜き差しをしないでください。
  ･落雷のおそれがある場合は、充電をしないでください。

□充電のしかた(2)

⚠ 警告

➢充電コードや充電プラグを使用するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。

・充電コードや充電プラグの損傷が火災、感電、ショートの原因となります。
・充電コードや充電プラグの損傷を防ぐため、車体の転倒に気をつけてください。
・充電中に充電コードを足でひっかけないでください。
・充電コードや充電プラグを車体などで踏まないでください。
・充電コードや充電プラグを収納せず走行し、引きずらないでください。
・充電コードや充電プラグをドアやサッシなどで、はさまないでください。
・充電コードや充電プラグをシートで、はさまないでください。
・充電コードを引っ張ったり、結んだり、強い力を加えたりしないでください。
・充電コードをねじらないでください。
・充電コードや充電プラグの上に物を載せないでください。
・充電コードや充電プラグは、硬いものや重いもので踏まないでください。
・充電コードを束ねたり、小さく丸めたりしないでください。
・充電コードや充電プラグを傷つけたり、加工するなどしないでください。
・充電コードを無理に曲げないでください。
・充電コードや充電プラグを釘などの鋭利なもので固定しないでください。
・充電コードや充電プラグをストーブなどの暖房器具に近づけないでください。
・充電コードや充電プラグを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
・充電コードや充電プラグが損傷(断線や芯線の露出など)している状態で使用しないでください。

バッテリーの充電

注意

➢自動車のAC電源、発電機などを充電に使用しないでください。故障の原因となります。充電するときは、必ず家庭用の漏電遮断器 に接続されたアース付きコンセント(100V)をご使用ください。

➢ご使用にならないときは、充電プラグを家庭用の漏電遮断器に接続されたアース付きコンセント(100V)につないだま まにしないでください。ホコリや異物の蓄積が火災、感電、ショートの原因となります。また、落雷などによる故障のお それがあります。ご使用にならないときは、安全のためコンセントから充電プラグを抜いてください。

➢充電が終わった後は、必ず充電コードを車両に収納してください。

要点

➢充電は、家庭用の漏電遮断器に接続されたアース付きコンセント（100V）を電源として車載充電器によって行います。
➢盗難予防のため､充電するときは必すハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

⚠ 警告

➢充電コードや充電プラグの改造、分解はしないでください。火災、感電、ショートの原因となります。

➢充電コードの芯線が見えるような傷があるものを使用すると、接触による感電や半断線による発熱のおそれがあります。芯線が見えるような傷を見つけたときは、すぐに使用を中止し、販売店で点検を受けてください。

➢車両の転倒などにより充電コードや充電プラグに強い衝撃を与えたと思われる場合は、すぐに使用を中止し、販売店で点検を受けてください。

➢充電コードに強い引っ張り荷重がかかり、車両から充電コードが外れるなどの異常があった場合は、すぐに使用を中止し、販売店で点検を受けてください。

➢充電コードは過度の引っ張りで伸びることがあります。収納に支障が出るほど伸びてしまったときは断線のおそれがありますので、販売店で点検を受けてくだい。

➢充電コードや充電プラグは安全にお使いいただくために定期的に点検し、変形、傷付きなどの損傷があるときは、販売店に依頼して純正部品と交換してください。

➢充電プラグの刃部(金属接点部)が折損したり、グラグラしているような物を使用すると、接触による感電や半断線による発熱のおそれがあります。プラグの刃部が折損したり、グラついているようなときは、すぐに使用を中止し、販売店で点検を受けてください。

➢車体が大きく破損、変形しているときは感電のおそれがあります。バッテリーや電気配線に触れないでください。また、充電プラグをコンセントに差さないでください。

バッテリーの充電

注意

- **充電コードの取り扱いは充分注意してください。ドアやサッシで充電コードをはさみ込むと、充電コードを傷つけるおそれがあります。**
- **充電コードは、溝を通して配線してください。充電コードを溝に正しく通さないと、充電コードなどが損傷するおそれがあります。**

⚠ 警告

- **漏電による感電や発火を防ぐため、必ず漏電遮断器に接続されたアース付きコンセントを使用して充電してください。**
- **充電プラグの金属端子部分に、ほこり、ゴミ、土、油、水などが付着すると火災、故障の原因となります。**
- **充電プラグは、根元までしっかり差し込んでください。漏電遮断器に接続されたアース付きコンセントへの接続が不充分な場合は、感電や火災の原因となります。**
- **漏電遮断器に接続されたアース付きコンセントを他の器具と併用して、容量以上で使用しないでください。他の器具を併用すると、分岐コンセント部が発熱し、火災の原因となることがあります。**
- **充電プラグを濡れた手で取り扱わないでください。感電するおそれがあります。**
- **充電が終わった後は、速やかに充電プラグをコンセントから抜いてください。充電プラグをコンセントに差し込んだままにしておくと、水没やいたずらにより漏電、感電の原因となります。また、ほこりや異物の蓄積が火災、感電、ショートの原因となります。**

注意

- **充電コードは長さに余裕を持たせてコンセントに接続してください。車両が転倒して、車体、充電コード、充電プラグ、家庭用コンセントなどを損傷するおそれがあります。**
- **充電コードをひっぱって充電プラグを抜かないでください。充電コードを傷つけるおそれがあります。**

□充電時間

注意

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残量・外気温により異なります。
バッテリー残量０％の状態のバッテリーを充電するのにかかる時間の目安は
約6～9時間です。

注意

充電終了後は、充電コードを車体に正しく収納してください。

バッテリーの充電

リチウムバッテリーとは…　<バッテリーの知識>

- 充電前にバッテリーを使い切る必要はありません。
- 使用年月や使用条件により徐々に放電容量が低下します。
- 外気温により性能が変化することがあります。
- 低温時は常温時に比べて、一充電あたりの走行距離が短くなり、また充電時間が長くなります。低温時は常温時に比べて放電容量が低下し､一充電あたりの走行距離が短くなりますが、故障ではありません。
- 極端に高温または低温の場所でお車を保管すると放電容量が低下することがあります。
- 使用しなくても徐々に放電し、バッテリー残量が減っていきます。

バッテリーのリサイクルにご協力ください

リチウムイオンバッテリー（Li-ion）はリサイクル可能なバッテリーです。バッテリーが劣化して放電容里が著しく低下したときは､販売店にバッテリーの交換を依頼してください。

⚠ 警告

- **バッテリーを分解しないでください。**
- **バッテリーを加工､改造しないでください。**
- **異なった種類のバッテリーと接続しないでください。**
- **指定以外の充電器で充電しないでください。**
- **バッテリーを他の用途に使用しないでください。**
- **バッテリーの交換は､販売店に依頼してください。**

注意

- **バッテリーを交換したときは､使用前に1回､完全に充電してください｡完全に充電しないと､メーター内バッテリー残量表示灯が正確な残量を表示できません。**
- **0℃程度の低温では､常温に比べて約20%放電容量が低下します。**
- **劣化したバッテリーを低温で使用すると､劣化と低温による両方の影響を受けて放電容量が低下します。**

□発進の準備

要点

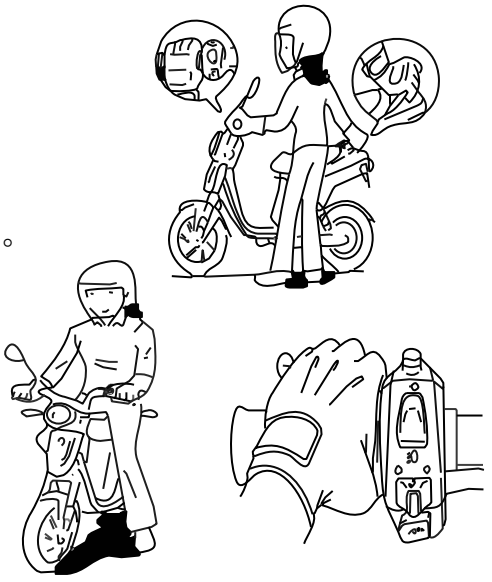
発進の準備はスロットルグリップを閉じて行ってください。スロットルグリップを回して操作すると、エラーになることがあります。

車の左側に立って左手でリヤブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちます

車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

右足をフットレストに乗せ、シートに座ります。このとき、車が倒れないように左足で支えます。

車が動き出さないように、左手でリヤブレーキレバーをしっかり握ります。



⚠ 警告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

⚠ 警告

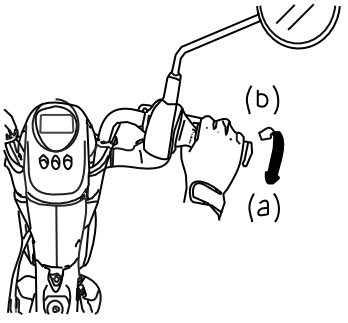
飛び出し防止のため、必ずリヤブレーキを作動させてください。

⚠ 警告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

□加速と減速

速度の調節は、スロットルを開けたり、閉めたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを(a)方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを(b)方向に回します。

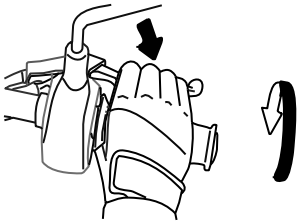


注意

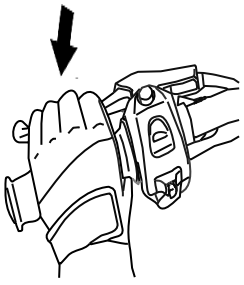
上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、モーターなどが発熱して温度
保護装置が作動し、走行できなくなることがあります。

□ブレーキ

➢スロットルを完全に閉じます。
➢フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にしばりこむように握ります。



フロントブレーキ



リアブレーキ

⚠ 警告

➢急なブレーキは避けてください(特にどちらか一方に傾いている時)。横すべりや転倒の原因となります。
➢踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
➢濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
➢下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
➢連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、１年点検と２年点検の２種類があります。

⚠ 警告

➢点検整備を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してくだい。

➢安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検･整備を行ってください。難しいと思われる内容は販売店にご依頼ください。

➢点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
･点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、メインスタンドを立てて行ってください。
･走行直後は、モーターなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
･走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
･異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身または販売店で必ず整備を行ってください。
･充電プラグをコンセントに接続した状態では点検･整備をしないでください。

⚠ 警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドする
おそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要点

➢点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。）
➢点検結果は、定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、販売店で点検を受け、記録してください。
➢点検の記録は廃車されるまで保存してください。
➢メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

□モーターの異音の点検

モーターから異音がしないかを点検します。

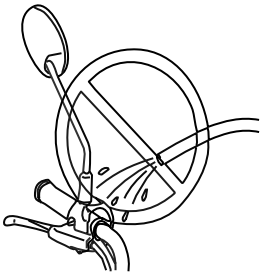
要点

メインスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもモーターの回転数は一定以上にはなりません。

□低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

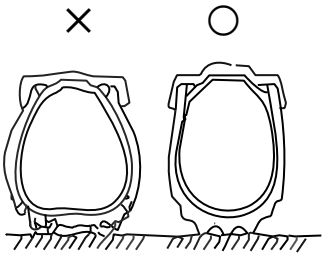
- メインスイッチをOFFにした状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。
- スロットルグリップまわりに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- 洗車時にはスロットルグリップまわりに直接水をかけないようにしてください。スロットルグリップ
- まわりの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふきとってください。



⚠警告

スロットルグリップの作動に異常があるときは、早めに販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

□タイヤ･空気圧



- タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少 なくとも１か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

□タイヤの亀裂･損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石､その他の異物が刺さっていないかを点検します。

要点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

□タイヤの異常な摩擦

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

□タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。
ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください｡一般的に原付のタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが1.6mm以下になりましたら交換をおすすめします。

⚠警告

タイヤを交換するときは､必ず指定タイヤを使用してください｡指定タイヤ以外のタイヤを使用すると､操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。

□ブレーキレバーの遊びの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが10.0-20.0mmの範囲にあるかを点検します。

お車のお手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。すみずみまで掃除すれば､普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

注意

お車によってはマット塗装(ツヤ消し塗装)が施されています。お車の手入れの前に販売店で、どのようなアフターケア用品を使用したら良いか､ご相談することをおすすめします。また、マット塗装部分のお手入れをするときは､以下の点に注意してください。

･洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
･ワックスがけはしないでください。ふき残しなどにより､外観が変化することがあります。
･コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて､光沢がでることがあります。
･マット塗装部分の補修が必要な場合は､販売店にご相談ください。

□洗車

雨天走行後など､車が汚れたときは早めに洗車してください。
車をサビやキズから守ります。

➢中性洗剤を使用して洗車した後､充分に水洗いします｡洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
➢洗車後､必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
➢車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。
（マット塗装部分を除く）

⚠警告

➢バッテリーを充電しながら洗車しないでください。火災､感電の原因となります。
➢洗車をする前に､必ずシートが閉まっているか確認してください。シートが開いていると､バッテリーや車載充電器に水がかかり､感電やショートの原因となります。
➢洗車時､ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると､ブレーキの制動力が低下し､一時的にブレーキが効かなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。
➢洗車後､ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは､前後の車に充分注意しながら低速で走行し､効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて､ブレーキの湿りをかわかしてください。
➢充電コード､充電プラグは水で洗わないでください。汚れたときは､乾いた布でふき取ってください。

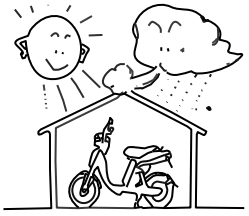
注意

➢スロットル、電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
➢ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、 ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
➢ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品は、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
➢高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要点

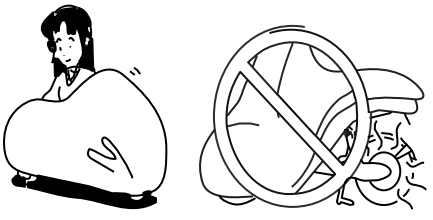
洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど､ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時問点灯することで自然に取れます。

□保管場所



➢平坦で安定のよいところ。
➢風通しがよく、湿気のないところ。
➢雨つゆや直射日光が当たらないところ。
➢車はできるだけ敷地内に保管してください。

□保管方法



➢盗難予防のため､車から離れるときは必ずロックをかけ､キーをお持ちください。
また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

➢屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。

□長期保管

➢バッテリー残量が少ない場合は充電してください。バッテリーを長持ちさせるために、バッテリーの残量表示が２～３灯の状態での保管をおすすめします。
➢バッテリーの残量が20%以下（バッテリーの残量表示が１灯以下）の状態にならないようにしてください。この状態で長期保管すると電池がダメージを受け、容量低下の状態によってはバッテリーの交換となる場合があります。

要点

バッテリーは完全に放電してしまうと再充電して使用することができなくなります。

➢長期間使用されないときは、バッテリーの残量が20%以下（バッテリーの残量表示が１灯以下）の状態を避けるため充電してください。

➢保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。

□長期保管して再使用するときは

➢長期間（１か月以上）保管して再び使用する場合は、必ず充電をしてから使用してください。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）
➢走行前に、各部の点検をしてください。
➢充電する前に、充電コードおよび充電プラグの点検をしてください。

機種名称	：	TDR216Z
モーター	：	ブラッシュレスDCモーター
定格出力	：	240W
バッテリー	：	リチウムイオンバッテリー
出力電圧	：	48V
車両重量	：	42Kg
最大速度	：	30Km/h
定地航続距離	：	約100Km
ホイールベース	：	1150mm
充電時間	：	6時間～9時間
乗車定員	：	1名:

□二輪車を廃棄する場合は?

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

□廃棄二輪車取扱店とは?

（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。

保証書とアフターサービス

保証書について

・この製品には保証書が添付されていますので、所定事項の記入及び記載事項をお確かめのうえ、大切に保管ください。
・保証期間は、お買い上げ日より１年間です。

アフターサービスについて

・「故障かな？」と思ったら、もう一度この説明書をご覧になってお調べください。
・故障の場合は、お客様ご相談窓口あるいはお買い上げ店にお問い合わせください。
・保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理を実施いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
・保証期間経過後の修理についてはお客様ご相談窓口へお問い合わせください。

Global Link.
グローバル・リンク株式会社

GE-SCOOTER 保証書

本保証書は、本製品を日本国内で購入され、かつご使用される場合にのみ有効です。

この度は当社製品GE-SCOOTERをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
当社ではお買い上げ製品に対しまして、製品保証を下記記載の保証期間中は無償で提供しております。
なお、お客様が別途当社とサポート契約を結ばれた場合は、本保証書によらず、サポートサービス契約の内容に応じたサービスを実施いたします。

お買い上げ製品

品　　名	：	GE-SCOOTER
型　　名	：	TDR216Z
製品番号(※)	：	
お買い上げ日	：	

保証期間 ： お買い上げ日より1年間

販売会社名または販売店名

※:製造番号は修理依頼時に必要となります。

お客様ご相談窓口のご案内

〒100-0006
東京都千代田区有楽町2-7-1有楽町イトシアビル12階

グローバル･リンク株式会社

TEL : 03-6860-4601　FAX : 03-6860-4501

販売会社または販売店名

Global Link

Printed In Japan　2012 06.18